

## 議会へ行こう! ネットで視よう!



### ●令和6年度の主な歳出

- ・東福岡駅周辺地域団地再生事業4,554万円
- ・定額減税補足給付金事業6億8,331万円
- ・ふくとびあ施設整備事業2億1,229万円
- ・中小企業者支援事業1,000万円
- ・津丸踏切改良事業2億6,600万円
- ・福岡中学校校整備改修事業11億324万円



### ●会派で水害対策の研修会を開催

福津市の流域治水の水害対策について、九産大建築都市工学部の山下三平教授を招致して、1月19日に議員12名が参加し

研修会をおこないました。



### ●福岡都市圏消防共同指令センター見学

宗像・福津・古賀・新宮・篠栗の議員で福岡都市圏6つの消防本部で共同運用する指令センターの取り組みについて2月2日視察研修をおこないました。

### ●水産高校の「育てる漁業」見学

福津市の学校給食の使用済み昆布を活用した、クロアワビの稚貝の餌として活用育成する取り組みの見学会に2月5日参加しました。

3月定例会の内容等は  
こちらのQRコードで  
ご確認ください

## 令和6年度の当初予算は

一般会計及び国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険事業特別会計、公共下水道事業会計をあわせると5会計で総額478億9603万円、前年度に比べ30億378万円、6.7%増の予算編成となっております。今後老朽化する公共施設の改修費や物価高騰による事業費の不足など先を見据えた財源確保が急がれます。

中面へ続きます。

## 総括質疑って何!?

市長は令和3年2期目を再選され、本年度は市政運営の最終年度となります。当初所信表明で掲げた内容で一部変更したもの、先送りしたもの、またまちづくり基本構想の達成度について質疑をおこないました。

榎本博後援会まちづくり研究会福津  
〒811-3221 福津市若木台2丁目18-5  
Tel 090-9720-3205・Fax 0940-43-3647

榎本議員の活動を配信!

Webで検索 **榎本博後援会**

<http://www17.plala.or.jp/chii/iki/>  
E-mail: eno5757@agate.plala.or.jp

榎本議員は  
2010年に議員  
力検定に  
合格。



## 総括質疑って何!?



総括質疑は  
このQR  
コードで

新年度の予算編成方針や市長就任後に行う所信表明の考えなどを聞くことを総括質疑といいます。質疑は1項目につき3回までと決められおり、持ち時間は無会派の議員は15分、2名の会派は30分、3名以上の会派は45分。榎本議員は30分の持ち時間で質疑をおこないました。

**問：**内容を一部変更、先送りしたものは。  
**答：**過大規模校となった福間南小学校の過密化緩和のために小中一貫校など新設校を複数校つくることが財政上の問題もあり実現できず変更となった。また東福間駅周辺の整備では旧商業施設と公園を入れ替える予定であったが採算性等の分析をおこなった結果、商業施設は断念した。

しかし当初掲げたにぎわい再生という面から公園や駅前広場を市民が活動できるスペースとして検討している。



東福間駅周辺地域

**問：**新設小学校整備と過密化解消は。  
**答：**新設校の用地のシミュレーションの結果、新設校予定地南北周辺では民間の

市政  
運営



市の  
考えは



開発の影響もあり、浸水深が大きくなる個所もあった。造成の高さを調整するなどの対策で低減できないか検証しており、その結果は地域で説明し進めていきたい。また過大規模校過密化解消については令和6年度中に総合教育会議を開き緩和対策の方向性を示したい。

**問：**郷づくり活動の充実と自治活動の対策は。

**答：**郷づくりに市の職員が地域の状況に応じてサポートをおこない活動の充実を図っていく。また市民や団体に向け、令和6年度福津市未来共創センターで、大いに褒めあう制度「ウェルビーイング大賞」でモチベーションを高め、主体性のある自治活動へ広げていきたい。

**問：**ミニバス運行の改善やライドシェアは。

**答：**乗降キャッシュレス決済で乗降りのデータを活用し、ルートの見直しの際にルート・時間の短縮など、地域の聞き取りもしながら、改善に取り組んでいる。またライドシェアや自動運転など今後検討していきたい。

**問：**農・漁業・商工分野の目標と経済効果は。

**答：**農業分野では令和6年度から高収益作物導入事業などで出荷量や所得の把握を、水産業分野では育てる漁業などを推

進する中で漁獲量の変動等も把握し、漁業者の所得の向上を目指していきたい。商工分野ではすぐに経済効果は出るものではないと思っている。



**問：**津屋崎地区活性化の新たな取り組みとは。

**答：**DMOが観光協会や事業者と連携して体験ツアーなど創設し、新たな観光資源も活用して福津の目指すべき観光に取り組んでいく。

**問：**観光産業活性化協議会の中間報告で、観光消費単価や観光客数などの調査の再検討が指摘されている。データ管理や調査事業は経営戦略課で一元化し、横断的な態勢で進めるべきでは。

**答：**基礎データの把握や管理は、政策を立案する上で非常に重要である。経営戦略課で一元化する必要があると考えている。